



6Fからさらに高層の病棟を見上げたところ。6Fには小児病棟があり、キッズバー やリハビリコートなども設けられている。



1FにあるX線撮影室などの扉には、女子美術大学の学生によるヒーリングアートが描かれ、癒しの空間を演出している。

特集
1

「成長する病院」とトイレ

北里大学病院 スマート・エコホスピタルの取り組み



病院と福祉のトイレ 2010*

「北里大学新病院プロジェクト」は、北里研究所創立100周年、北里大学創立50周年の記念事業の一つとして2005年にスタート。時代の要請や社会の変化に応じ、将来に向けて発展し続けることのできる「成長する病院」をめざしています。2014年の5月には、本館がオープン。この特集では、その施設づくりと水まわりにスポットを当てて、病院のあるべき療養環境についてご紹介します。癒しのトイレ研究会とは、2009年度より共同研究がスタートした北里大学病院の、最新の画期的な取り組みをどうぞご覧ください。

*病院と福祉のトイレ2010で「北里大学病院での実践と研究」を特集しています。



スタッフ用手洗器が、病棟のスタッフステーションなどのさまざまな場所に用意され、感染対策を講じている。



病棟12F(整形外科病棟)の個室のトイレ。背もたれや跳ね上げ手すり、I型手すりなどが備えられている。

これからの病院の標準となる設計思想や技術を確立する、スマート・エコホスピタル。

超急性期医療・救急医療を担う新しい病院のコンセプトは、「THE UNIVERSITY HOSPITAL」。「THE」…これぞ大学病院という、これからの病院の標準となる考え方や技術の確立をめざしました。特に改修工事が多い病院という場所において、メンテナンスができる長く使えるように配慮していることも、「成長する病院」の大きなポイントです。その水まわりにおいては、診療科ごとの特徴をあまり出さずに、科の編成変更にも柔軟に対応できるように、誰にでも使いやすいスタンダードなものを作り上げています。良質

設計主旨「THE UNIVERSITY HOSPITAL」

- 既存施設と一体となったキャンパス計画の一環
 - ……医療・研究・教育の空間整備連携体制
- 病院建築のフレキシビリティ向上とロングライフ化
 - ……サードスペース & サバントスペース
- これからの次代に求められる、急性期高度医療空間
 - ……新しい時代のナイチングール病棟
- 患者環境、スタッフ環境の充実・アメニティの向上
 - ……ストレート4床室 など
- 環境との調和、環境にやさしい病院
 - ……省CO₂への取り組み、スマート・エコホスピタル
- 災害に強い施設づくり
 - ……医療活動の継続BCPへの対応
- これからの時代の設計手法への取り組みと運用段階での展開
 - ……BIMの全面的な導入、建築情報の把握



手前が新病院棟(本館)の低層棟、奥が高層棟。
隣の1号館の改修工事も進んでいる。

【北里大学病院 新病院】

- 竣工年月／2013年12月(本館)
- 所在地／神奈川県相模原市南区北里1-15-1
- 施主／学校法人北里研究所
- 設計／株式会社日建設計
- 設計協力・施工／株式会社竹中工務店(建築)
株式会社さんでん(電気)
東洋熱工業株式会社(機械)
- 病床数／1,033 床
- 延床面積／102,402.91m²

な医療環境と、次世代の環境にやさしい病院を両立したエコ医療環境…「スマート・エコホスピタル」が、未来へ向けて生き生きと始動しています。



明るくて遠くまで見渡せる1F外来のロビー。



患者さんが快適に移動できるエスカレーター。



中庭からの吹き抜けが、採光性を高めている。

環境整備課・課長さんからの声



事務部 環境整備課
課長
座間弘和さん

医療の進歩とともに、病院も絶えず進化を続けます。今はふさわしい医療でも、10年後はすっかり変わっていることがよくあります。ですから病院の設備も、新しい医療に対応できる構造であれば、後で改修工事などを進行する場合でも便利でかつ有効になります。それが「成長する病院」の一つのカタチであると言えるでしょう。

癒しのトイレ研究会との共同研究では、患者さんの声から、トイレの重要性に改めて気づかされる機会がありました。「トイレは、一人で泣ける場所なんです」というお話を、胸に強く響きました。単に生理現象のために入る場所ではなく、それ以上のものがあるんだ…療養環境の一部として、しっかりと

考えなくてはと実感したのです。そうした思いや、研究会といつしょに学んだことが、新しい病院にも生かされています。最初は、個室のトイレを窓側に配置すると、窓が狭くなったり、看護師の動線が長くなってしまうと困ると感じ、反対していました。でも、患者さんから「出入り口近くにトイレがあると、面会の人や外部の人に、トイレに入っていることが分かってしまうからイヤだ」というお話を聞いて、なるほどそうかと思ったのです。これからも患者さんに最適で使いやすい、本当に癒される環境を追求とともに、今後は、新しい設備に見合ったメンテナンスの方法も総合的に検討していきたいと考えています。

Contents

特集① 「成長する病院」とトイレ

北里大学病院 スマート・エコホスピタルの取り組み 2

特集② 患者さん＆スタッフ視点の改修工事

病院の水まわりに関するアンケート調査結果	8
事例紹介① 大阪府立急性期・総合医療センター	9
事例紹介② 碧南市民病院	15
事例紹介③ 聖路加国際病院	16

病院のケーススタディ

- Hospital Case Study 1 戸田市立市民医療センター 18

特集③ 5W1Hでわかる! 医療・高齢者施設の環境管理

- 19

特集④ トイレの建材選びと清掃のポイント

- 22

特集⑤ 視覚障がい者をトイレへ誘導するために

- 24

病院のケーススタディ

- Hospital Case Study 2 佐久総合病院 佐久医療センター 26

高齢者施設のケーススタディ

- Welfare Case Study 1 志井ヶ丘 楽々庵 28

癒しのトイレ研究会 メンバー紹介

- 30

癒しのトイレ研究会からのメッセージ

特集①「成長する病院」とトイレ

病棟12F(整形外科)

動線を短縮し、患者さんを見守る、 新しい時代のナイチングール病棟。

新しい病院環境づくりでは、多くの看護師さんにアンケートをとるなどして意見を求めましたが、看護師の動線が長いと、夜間などはたいへんであるという声がありました。これを解消するために、病棟の建物のカタチを蛇腹状にして(次ページ平面図参照)中心にスタッフステーションを配置することで動線を短縮。看護師の機動性や看護の視線を確保したという意味で、新時代のナイチングール病棟と呼ばれています。トイレ空間では、前方アームレストなどがたいへん使いやすいと好評です。



個室の様子を把握しやすい、12F整形外科病棟のナースホールに設けられたナースピット。



オストメイト対応の多機能トイレ。床材を巻き上げているので清掃しやすい。



車いすトイレには、背もたれや前方アームレストなどを設置。

感染対策のために、随所に設けられたスタッフ用手洗器。

衛生的にしっかりと手洗いができるコンパクトなスタッフ用手洗器を、スタッフステーションの入口3ヵ所に設けるなど、集中治療室や外来の処置室、厨房などのトータル240ヵ所に導入。スタッフの動線を考慮しながら、手洗いによる適切な感染対策を施しています。



スタッフステーションに設けられたスタッフ用手洗器。



男女兼用のトイレでは、手すりにバッグが掛けられる。



ストレッチャーのまま入って利用することもできるシャワー室。



効率的に作業できるように、汚物流しなどが設置された汚物処理室。



病棟基準階 平面図

病棟12F(整形外科)個室



12F整形外科病棟の個室。床材にこだわり、木目調のノンワックス複層シートを採用している。

**患者さんの意見を取り入れて、
個室の水まわりは窓側にまとめて配置。**

病棟の個室では、トイレや洗面台などの水まわりを窓側に配置しています。これは、「出入り口近くにトイレがあると、面会の人や外部の人に分かってしまうのが辛い」という患者さんからの声を基に、プライバシーに配慮した設計です。それと同時に、設備系の配管などは窓側に設けたほうが、メンテナンスや改修がしやすいというメリットもあります。また、トイレにはバウチ・しひん洗浄水栓付き背もたれを採用。ストーマ装具やしひんが容易に洗浄できるなど、個室でもオストメイトをはじめとする患者さんの使い勝手に配慮しています。



個室の出入り口。廊下の床材は巻き上げているため清掃しやすい。



個室のトイレも部屋の中とコーディネートされたデザイン。



車いすでも使いやすい洗面台を、個室の窓側に配置。水栓が壁付けになっているので、水栓の付け根に水がたまらず、衛生的である。

特集①「成長する病院」とトイレ

本館3F 外来



スペース・ユーティリティが高く、清掃もしやすい外来のトイレ。

外来のトイレは、車いすでも使いやすい、十分な広さのある多機能トイレを用意。ベビーシートやベビーチェア、多目的シートなどを設け、オストメイトなど、さまざまな患者さんが使いやすいように設計されています。また、男性用や女性用のトイレでは、奥に広めのブースを確保して引戸を採用するとともに、空間を効率的に生かしたい場所には、ブースにアール型の扉を採用。小便器も大便器もすべて壁掛けタイプを採用し、清掃しやすく、長くきれいに使えるように配慮されています。トイレの数は増えましたが、利用も増加。その利用頻度に合わせて、トイレごとの清掃回数を決めています。



外来の男性用トイレ。奥のブースは広く、その手前のブースはアール型の扉にするなど工夫されている。



癒しの空間を提供する、ヒーリングアートを導入。

北里研究所では、以前から病院環境づくりの一環としてのヒーリングアートに注目し、積極的に取り入れています。新しい病院でも、周産母子成育医療センター小児病棟エリアや、小児総合外来などに、女子美術大学とのコラボレーションによるヒーリングアートを壁面などにデザイン。診察室には、ピーターパンや不思議の国のアリス、ピノキオなど、それぞれの部屋によってテーマの異なる「おとぎ話」の絵が生き生きと描かれ、子どもたちやご家族に素敵な笑顔をもたらしています。



楽しいヒーリングアートで彩られた小児総合外来の窓口。



本館6F 職員レストラン



本館6Fのレストランの隣に設けられた、職員レストラン。温かみのある木質感が、優しくスタッフを包む。



職員レストランの入口には、感染対策とともに気分をリフレッシュできる、おしゃれな手洗器が設けられている。

設計担当の方からの声

フレキシブルに変更できる、長寿命建築をめざした。



株式会社日建設計
設備設計部門
設備設計部 主管
塙見史郎さん

病院建築のフレキシビリティ向上とロングライフ化を大きなテーマとしています。病棟の4床室は、ストレートに配置して、場所によって窓から近い遠いの不公平が生まれないようにしていますが、将来的には上下階への影響をできるだけ抑えながら、大幅な改修工事を行わずに個室にも変更することができます。今後の改修工事や点検時に分かりやすいように、天井内の配管を色付きの金網で色分けするなどの工夫も行っています。「スマート・エコホスピタル」のスマートには、賢いや優しいなど多くの意味がありますが、賢くエコを推進するために「ゼロエナジー病室」を提案し、エコシャフトによって自然換気を行ったり、井水熱や太陽熱を利用するなど省エネをはかっています。きれいで衝撃に強い壁材を選択したことなども、ロングライフ化を支える大きなポイントになると思います。また、災害時にもトイレは井水を使えますし、もし下水管がダメになってしまって地下には約3日分の緊急排水貯留槽が用意されています。自立型の設備計画によって医療の機能継続を考慮し、災害にも強い施設づくりを行っています。